

企業紹介

型破りな型屋が新しい技術をお届けします！

株式会社 片山抜型製作所

代表取締役 片山 勇
〒940-2147 長岡市新陽1-11
(長岡オフィス・アルカディア)
TEL 0258-21-5264 FAX 0258-21-5265
<http://www.diemex.com>

業 種：各種抜型製造、抜型付属部品製造
資 本 金：4,840万円
事業内容：紙器類及び段ボール用抜型、各種雌型の設計・製造

抜型製造では、常に一步先ゆく技術・品質を追求し、「型のトータルパートナー」として業界をリードし続けている(株)片山抜型製作所。永年の実績に裏付けられた高品質な抜型を提案・提供することで、お客様の安定生産、生産性向上に貢献している。

国内での抜型製造の先駆者

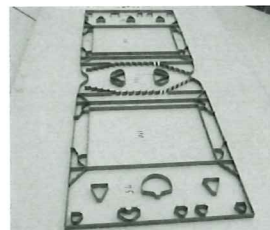
同社は、紙器抜型の製造業者として大正12年東京で創業。森永製菓のミルクキャラメルの紙箱誕生に携わるなど、永年にわたり抜型製造の技術革新を進め業績を拡大してきた。

抜型（ダイ）とは、紙箱類の展開形状を打ち抜く工具。雌型と呼ばれるプレートとともに材料をはさみ、組み立て前の製品を作る。

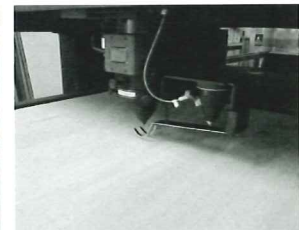
昭和50年に、国内で初めてレーザー加工機による抜型製作に成功し、それまでの手作業による糸ノコでの加工では成し得なかった高精度な寸法精度を実現した。この技術は主力商品である「レーザーダイ」に生かされている。



▲長岡オフィス・アルカディアにある長岡事業所



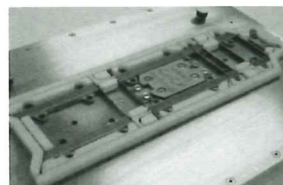
▲主力商品 レーザーダイ



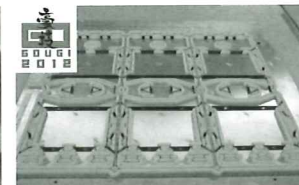
▲ベニヤ板へのレーザー加工

高い精度と優れた耐久性を持つ「メタルダイ」

平成5年には、金属材と樹脂材の積層構造に精密切削加工を施した「メタルダイ」を開発。従来、抜型は主に木型を使用していたが、気温変化や耐久性に難があり大量生産には不向きであった。「メタルダイ」は、木型を金属と樹脂製にすることで長期間安定した性能を維持でき、大量ロット生産への対応も可能にした。



▲大量生産に対応 メタルダイ

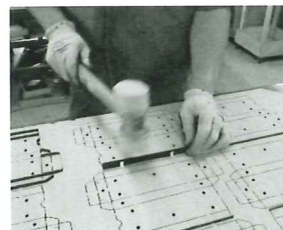


▲「豪技」に認定されたエコ・メタルダイ

長岡技術科学大学との連携による技術開発

平成7年には、新技術・新製品開発の一環として抜型技術の研究を進めるため、長岡技術科学大学との共同研究を開始した。この同大学との連携がきっかけとなり、平成20年、東京に営業部門だけを残し、長岡オフィス・アルカディアに開発・製造部門を集約することとなった。

平成24年には、商品の多様化のため、「メタルダイ」に軽量化などの改良を加えた「エコ・メタルダイ」を開発。これにより中・小ロット生産に適した抜型の需要への対応も可能となった。また、同製品は、寸法精度の高さを評価され、優れた技術を認定する長岡産業活性化協会N A Z Eの「豪技2012」に選ばれた。「豪技」認定は、長岡技術科学大学との共同研究の成果が現れたもので、「型のトータルパートナー」として同社の高い技術力のアピールになると期待されている。



▲工程には地道な手作業の部分も



▲同社の抜型を使用した紙箱類